

＜ 計画推進部会 各委員の評価まとめ＞

推進施策 1－（１）：教育・保育内容の質の向上

評価の記載について： （ ）内は人数、
順調である＝A、 どちらかといえば順調である＝B
あまり順調でない＝C、 順調でない＝D

全体評価結果	「どちらかといえば順調である」
評価	意見等
A（１人） B（５人） C（０人） D（０人）	[A] 以前勤めていた職場では、まだ保育士が足りていないようなことを聞いたため、これからも就職説明会は続けてほしい。 [B] 今後、教育・保育従事者の人材不足はより深刻な状況に陥ることが懸念されます。物理的に人材不足が解消されない状況の中で、どのように教育・保育を維持していくことができるかという検討を早急に行うことが必要と思います。 [B] 保育士の資格を持っていても、二度と保育士の仕事はしたくないという声をよく耳にする。保育士一人当たりの対象児の人数が多くて責任が重すぎることや、早朝から夜遅くまで、休日までという勤務体制の負担や、賃金が安すぎるといったいくつかの課題があるように思われる。保育士だけでなく、給食調理員なども含めて、もっと待遇の改善を図っていく取組が必要なのではないか。 認可外施設での随時預かりの場合、子どもの病歴や成育歴などが一切分からないまま預かることになってしまうのではないかと。それが原因で事故等が起きてはならないと思う。預かる際の必要最低限の情報提供は求めてもよいのではないかと。（死亡事故のケースも、様々な情報を伝えられることなく預かったという話も聞いているので） [B] 基本的な考え方に基づき、再就職した保育士の雇用継続率を把握する必要は無いかと。 目標値 1（再就職支援による潜在保育士の確保者数）の実績が伸びたことに対する理由の把握が必要ではないかと。

＜ 計画推進部会 各委員の評価まとめ＞

	☒ B 人材不足は大きな問題であり、人材の確保は急務ではあるが、質の担保も重要である。今後も各種研修会を通じて、保育士等の資質向上に努めていただきたい。 B 再就職をした方が、繰り返し離職をしているにも関わらず研修会に参加している場合、それに無関心というのはいかななものかと考えるため、潜在保育士の定着に関する追跡調査をお願いしたい。
--	---

注) A～Dを□で囲んでいる意見は、点検・評価表に記載されたもの。

□で囲んでいない意見は会議中に発言されたもの。

＜ 計画推進部会 各委員の評価まとめ＞

推進施策１－（２）：認定こども園、幼稚園、保育所と小学校との連携の推進

評価の記載について： （ ）内は人数、
 順調である＝A、 どちらかといえば順調である＝B
 あまり順調でない＝C、 順調でない＝D

全体評価結果	「どちらかといえば順調である」
評価	意見等
A（０人） B（５人） C（１人） D（０人）	B 保幼小連携は、同じ宮崎市内であっても、地域によって状況は大きく異なる。入学児童のほとんどが地域内の保育園や幼稚園からくる小学校であれば、集まる形の会だけでなく、小学校の担当者が一つ一つの園を回って観察を行うことも可能である。入学児童のほとんどがあちこちの園からくる小学校では、集まっての会すら難しい場合もある。それぞれの地域の実態に合う形での連携の仕方があってよいのではないかと。 小学校は「必要な情報を貰えない」と思っているし、園は「伝えた情報が活かされていない」と思っているという実態がある。このギャップを埋められるような連携の仕方を工夫しなければ、会をしても意味がない。 B 保幼小連携は、以前に比べると確実に推進されている。今後はマンネリ化を防ぐ工夫をしながら、更に質的向上を図っていただきたい。 B 保幼小連携で動画の活用は素晴らしいと思う。短時間の面談では伝わらない部分も多いのでは。 C 施策の推進を評価するにあたり、目標値の設定と実態に乖離があり、正確な評価が困難な状況

注）A～Dを□で囲んでいる意見は、点検・評価表に記載されたもの。

□で囲んでいない意見は会議中に発言されたもの。

＜ 計画推進部会 各委員の評価まとめ＞

推進施策２－（１）：地域における子育て支援の推進

評価の記載について： （ ）内は人数、
順調である＝A、 どちらかといえば順調である＝B
あまり順調でない＝C、 順調でない＝D

全体評価結果	「どちらかといえば順調である」
評価	意見等
A（１人） B（５人） C（０人） D（０人）	☒ 地域子育て支援センターでの「一時預かり」ができるようになるというのではないかと。保護者のニーズは大きいと思うし、預かり中の様子からその後の相談につなぐこともできると思う。 本当に支援を必要としている家族に、必要な情報や支援が届くような仕組みづくりをさらに進めていただきたい。 ☒ 施設の在り方を検討する段階が近づいてきていると考える。就園率等を鑑み、より乳児が活用しやすい状況をつくることも検討するべきではないか。 ☒ 地域子育て支援センターの充実やファミリー・サポート・センター事業の推進を図ることにより、地域における子育て支援は進んでいる。さらに、支援の輪を広げていただきたい。

注）A～Dを□で囲んでいる意見は、点検・評価表に記載されたもの。

□で囲んでいない意見は会議中に発言されたもの。

＜ 計画推進部会 各委員の評価まとめ＞

推進施策２－（２）：ワーク・ライフ・バランスの推進

評価の記載について： （ ）内は人数、
 順調である＝A、 どちらかといえば順調である＝B
 あまり順調でない＝C、 順調でない＝D

全体評価結果	「どちらかといえば順調である」
評価	意見等
A（１人） B（４人） C（１人） D（０人）	☒ A ワーク・ライフ・バランス企業加盟事業所が増えれば、延長保育や日曜・祭日保育の利用も減ってくるのではないかと。 ☒ B ワーク・ライフ・バランスの推進には、企業等の就労場所における理解と努力が不可欠です。相手のあることですので、難しい取り組みとなりますが、企業等への働きかけなどを様々な観点から実施することも大切であると思います。 ☒ B 保育士にとってのワーク・ライフ・バランスについても考える必要がある。 ☒ B 以前よりは改善されてきているものの、まだ働きやすい職場環境が整っているとは言い難い。保育サービスの更なる向上と企業への働きかけをお願いしたい。 ☒ C 労働実態にあった保育所利用を自治体がより主体的に管理するケースもあり、検討の余地がある

注）A～Dを□で囲んでいる意見は、点検・評価表に記載されたもの。

□で囲んでいない意見や下線部分は会議中に発言されたもの。

＜ 計画推進部会 各委員の評価まとめ＞

推進施策２－（３）：ひとり親家庭の自立支援

評価の記載について： （ ）内は人数、
 順調である＝A、 どちらかといえば順調である＝B
 あまり順調でない＝C、 順調でない＝D

全体評価結果	「どちらかといえば順調である」
評価	意見等
A（１人） B（５人） C（０人） D（０人）	B 項目１に関して、本当に支援が必要な家庭に支援が届いていない事例をたくさん見てきた。市が様々な努力を続けておられることも知っているが、必要な家庭に必要な支援が届けられるような工夫をさらにして欲しいと願う。学習支援事業は、市内１か所で、保護者の送り迎えが条件では利用者が限られてしまう。もっと利用しやすい工夫ができないか。 B ひとり親家庭は、年々増加傾向にあるように感じられる。周りに助けを求めやすい環境づくりや経済的な支援を引き続きお願いしたい。

注）A～Dを□で囲んでいる意見は、点検・評価表に記載されたもの。
 □で囲んでいない意見は会議中に発言されたもの。

＜ 計画推進部会 各委員の評価まとめ＞

推進施策２－（４）：障がい児など特別な支援が必要な子どもに 対する施策の充実

評価の記載について： （ ）内は人数、
 順調である＝A、 どちらかといえば順調である＝B
 あまり順調でない＝C、 順調でない＝D

全体評価結果	「どちらかといえば順調である」
評価	意見等
A（２人） B（３人） C（１人） D（０人）	☒ B 総合発達支援センターの予約が取りづらいという声について、その他の早期支援事業も含めて包括的な取り組みがされていることを周知させる必要があると感じる ☒ B 小学校では、特別な支援を必要とする子どもが増え、教職員が対応に苦慮しているという現状がある。早期発見・早期対応への施策とともに、支援スタッフの増員をお願いしたい。 ☒ C 宮崎市総合発達支援センターは、予約は半年以上待たなければならない、小学生になったら受診できないという状況は大きな課題だと考える。 授業スタッフ、スクールサポーター、生活・学習アシスタントの配置は、特別な支援が必要な児童・生徒にとってとても重要である。未配置の学校もあるので、さらなる充実をお願いしたい。 福祉・保健・医療・教育の各分野の連携がとても重要であるが、まだまだ進んでいないのが現状ではないか。学校だけでは対応が困難で、拡大ケース会議が必要な事例も多い。連絡会や協議会も必要ではあるが、本当に必要な連携を進める工夫も必要ではないか。 ☐ B 小学校では支援が必要な子どもたちが年々増えている。市からスクールサポーター等を派遣してもらって非常に助かっている。あと一人いれればと感じる部分もあるが、継続支援をお願いしたい。

注）A～Dを□で囲んでいる意見は、点検・評価表に記載されたもの。

□で囲んでいない意見は会議中に発言されたもの。

＜ 計画推進部会 各委員の評価まとめ＞

推進施策３－（１）：安全・安心な活動場所など、子どもの健全な 発達のための良質な環境整備

評価の記載について： （ ）内は人数、
 順調である＝A、 どちらかといえば順調である＝B
 あまり順調でない＝C、 順調でない＝D

全体評価結果	「どちらかといえば順調である」
評価	意見等
A（２人） B（５人） C（０人） D（０人）	☒ B 放課後児童クラブに入れなかった子どもの居場所としても、児童館が利用しやすい施設であることは重要だと考える。 教育支援教室については、学校と同じ時間帯（朝から夕方まで）で開設してほしいという声や、自習ではなく学習指導をしてほしいという声をたくさん聞いている。 子ども食堂が増えて、それぞれに特色のある取組をされていることにはとても意味があると思う。貧困対策という点ではまだまだ難しいところもあると思うが、安全・安心な居場所づくりという点ではとても良い状況にあると思う。 ☒ B 子どもの健全な発達のための環境整備については、児童館・児童センターの充実・改善や遊び場の確保など、様々な支援に努めていただいている。大きな事故やトラブルが起きないように、人的整備や保険の適用等の配慮にも努めていただきたい。 B 教育支援教室は、午前中の２時間の利用で保護者送迎が原則となっている。そのため、利用者の保護者は送迎の関係で仕事ができないため利用しにくい状況である。利用するとしても、勉強を教わるのではなく自習するだけであるため、利用するのが難しいという保護者の意見を多く聞く。より利用しやすい施設に改善していく必要があるのではないかと考える。

注）A～Dを□で囲んでいる意見は、点検・評価表に記載されたもの。

□で囲んでいない意見は会議中に発言されたもの。

＜ 計画推進部会 各委員の評価まとめ＞

推進施策３－（２）：放課後の子どもの居場所の確保

評価の記載について： （ ）内は人数、
 順調である＝A、 どちらかといえば順調である＝B
 あまり順調でない＝C、 順調でない＝D

全体評価結果	「あまり順調でない」
評価	意見等
A（0人） B（3人） C（4人） D（0人）	B 放課後の子どもの居場所づくりについては、社会の要請も強く、苦勞しながら対応していただいている。支援員の確保についても、よろしく願いたい。 C 施設不足、人材不足、待機児童の増加等、難問山積の状況だと考える。幼稚園や保育所の力を借りる、児童館を利用する、放課後等デイサービスのような形で民間施設に補助金を出すなど、大きな改革をしていく必要があるのではないか。 C 待機児童の実数把握について、保育施設等が自主事業として取り組んでいるケースの捉え方にご留意頂きたい。 B 放課後児童クラブは、ニーズは多いが、施設や担い手が少ない大変な状況だと思う。児童クラブを充実させることで、働く親のワーク・ライフ・バランスにも寄与するため、難しい課題だが充実させてほしい。 B 放課後児童クラブは、働き手がいない状況。この状況が続くと、現在のサービスすら提供できなくなるのではと危惧しているため、企業に対して「子育て世帯は勤務開始時間を遅くする、早く家に帰る」といった啓発をしてほしい。また、放課後児童クラブが立ち行かなくなった時に考えるのではなく、今のうちから制度そのものの抜本的な改革ができないのかを考えてほしい。

＜ 計画推進部会 各委員の評価まとめ＞

	C 公設民営も民設民営も、放課後児童クラブとして実施している内容は同じであり、民設民営があるから待機児童数が少なくなっていると言えると思う。待機児童数が多い地域に重点的に支援するだけでなく、民設民営の事業者の運営にも目を向けていただけるとありがたい。
--	--

注) A～Dを□で囲んでいる意見は、点検・評価表に記載されたもの。

□で囲んでいない意見は会議中に発言されたもの。

＜ 計画推進部会 各委員の評価まとめ＞

推進施策 4－（１）：妊娠・出産期からの親子の成長への 切れ目ない支援

評価の記載について： （ ）内は人数、
 順調である＝A、 どちらかといえば順調である＝B
 あまり順調でない＝C、 順調でない＝D

全体評価結果	「順調である」
評価	意見等
A（４人） B（３人） C（０人） D（０人）	A 経済的な不安から出生届を出さず、妊婦検診も受けていないという事例を限りなくゼロに近づけていくことが必要だと考える。 体罰や虐待を防止していくためには、妊娠中に情報提供をしっかりと行うことが必要ではないか。 B 産前産後の手厚いサポートが準備されているが、活用しない（若しくは拒否している）親も存在すると思われる。関係機関の連携を更に深めながら対応していただきたい。 A 夜間急病センターは、令和５年度に自分の子どもも利用させてもらったが、公的機関が開設していることの安心感はある。施設があって当たり前と感じてしまっているが、多くの方の努力があって運営されているものだと感じるため、感謝の気持ちを伝えたい。 B 大学病院や開業医の協力があって運営できているが、人手不足は医療の現場にも及んでいる。利用者の声を聞くと、医師の責務として継続の必要性を感じるが、医師の中では、いつまで継続できるのか問題となっている。医師会としてできる限りのことを実施していきたい。

注）A～Dを□で囲んでいる意見は、点検・評価表に記載されたもの。

□で囲んでいない意見は会議中に発言されたもの。

＜ 計画推進部会 各委員の評価まとめ＞

推進施策４－（２）：子どもの健康の保持と増進

評価の記載について： （ ）内は人数、
 順調である＝A、 どちらかといえば順調である＝B
 あまり順調でない＝C、 順調でない＝D

全体評価結果	「順調である」
評価	意見等
A（４人） B（３人） C（０人） D（０人）	☒ A 思春期の保健対策は、講師派遣の形では複数ある内容の中のどれか１つしか選べないし、学校によっては取り組むことが難しいところもある。メディアコンテンツを作成して、授業で活用できるようにすることで、より充実した指導が可能になると考える。 ☒ B 思春期の保健対策については、講師の派遣だけでなく、ビデオコンテンツを作製するなど、学校等が活用しやすい方法も検討していただきたい。 ☒ B 思春期保健対策の充実で、がん教育も取り入れてほしい。 B MR ワクチンの接種率が全国的に９５％を下回る状況が見受けられる。これは、コロナワクチンのように打たなくても問題ないのではないかという風潮が関係している。市が啓発する際は、コロナワクチンと MR ワクチンは違うということ伝えてほしい。

注）A～Dを□で囲んでいる意見は、点検・評価表に記載されたもの。
 □で囲んでいない意見は会議中に発言されたもの。

＜ 計画推進部会 各委員の評価まとめ＞

推進施策５－（１）：子どもの貧困対策の推進

評価の記載について： （ ）内は人数、
 順調である＝A、 どちらかといえば順調である＝B
 あまり順調でない＝C、 順調でない＝D

全体評価結果	「どちらかといえば順調である」
評価	意見等
A（１人） B（４人） C（２人） D（０人）	A 学習支援事業をもう少し広域で実施してほしい。 B 学習支援事業は、場所や回数を増やして、より多くの子どもたちが参加できるようにしてほしい。 SSW の果たす役割は大きい。家庭との相性もあるので、担当地区に縛られず、柔軟な対応ができるようにしてほしい。 支援が必要な家庭が見えにくい現状があると考え。様々な機会やネットワークを活用して、本当に支援が必要な家庭に必要な支援が届くようにして欲しい。 B 就学前検診と入学準備については、委員から意見のあったようにコロナ前のような進め方に戻すことを検討して良いのではないかと考える。 B 子どもの貧困対策については、関わり方が難しい面もあるが、引き続き可能な支援を行っていただきたい。また、地域や学校と連携を図りながら、情報収集や情報共有の在り方を模索していく必要があると思われる。 C 推進施策の目標値については、一定の実績があがっていますが、実際に子どもの貧困が減っているかどうかの実態が分からないと評価は難しいと思います。 C 「貧困問題」でいつも疑問に思うのは、支援の話は議論されるが、実際の貧困に関連するデータ（例：宮崎市の相対的貧困率）が見えない。市も貧困に関連するデータを出してほしい。

＜ 計画推進部会 各委員の評価まとめ＞

	B 学習支援事業は、市内で1箇所しかないため利用者は伸びにくいと思う。貧困対策としても重要な取組であるため、巡回する手法でも良いが、各地区で実施できれば良いと考える。 B 家庭の教育力向上という視点で、指標に家庭教育学級受講数があると思う。現実的な問題として、家庭教育学級を受講する方は、家庭の問題に目を向けて取り組んでいる人。本当に来てほしい人は受講しないため、多くの方に受講してもらえる手法を検討してほしい。
--	--

注) A～Dを□で囲んでいる意見は、点検・評価表に記載されたもの。

□で囲んでいない意見は会議中に発言されたもの。

＜ 計画推進部会 各委員の評価まとめ＞

推進施策５－（２）：虐待などのない社会づくりに向けた
取組の推進

評価の記載について： （ ）内は人数、
順調である＝A、 どちらかといえば順調である＝B
あまり順調でない＝C、 順調でない＝D

全体評価結果	「どちらかといえば順調である」
評価	意見等
A（１人） B（４人） C（２人） D（０人）	[B] 虐待を通告しても、保護者への一度の指導だけで全く改善されなかった事例や、解決までに４年もかかった事例など、枚挙にいとまがない。宮崎市に児童相談所ができることにより、救われることもたちが増えることを強く願っている。 ヤングケアラーの問題がどこにも出てきていないが、これも重要な課題ではないか。 保護者への啓発が重要な課題である。小学生や中学生のころから、虐待によって脳がダメージを受けることを指導する必要があるのではないか。また、妊娠期の両親に対しては、特に強く指導する必要があるのではないか。 [B] 児童虐待の未然防止・早期発見は、社会的にも大きな課題となっている。啓発活動については、継続的な取組はもちろん、よりインパクトのある方法で対応する必要があると思われる。 [C] 推進施策の目標値については、一定の実績があがっていますが、実際に虐待が減ることが目標だと思いますので、その意味では厳しい評価とさせていただきます。ただ、行政や関係機関のご努力は評価しておりますので、引き続き、虐待０を目指していただきたいと思います。 [C] 「体罰によらない育児」のための啓発活動の強化を行ってほしい。

＜ 計画推進部会 各委員の評価まとめ＞

	B 資料を見ると、虐待防止に向けて多くの取り組みをしていることがわかったため、虐待を発見した人にこのような情報を伝えたら良いのにと感じた。 B 学校も身体計測でアザが無いか等を見るようにしており、見かけたら関係機関に連絡することを徹底している。ケースは増えている様を感じるため、対処療養ではなく、事前防止の啓発を進めてほしい。 C 虐待されて育った子は脳が小さくなるという研究結果があるが、発達障害が増加していることにも影響しているため、重要な課題として取り組んでもらいたい。
--	---

注) A～Dを□で囲んでいる意見は、点検・評価表に記載されたもの。

□で囲んでいない意見は会議中に発言されたもの。